

2017年度 全国自立援助ホーム協議会 事業報告

2017年度中は、厚生労働省から「新しい社会的養育ビジョン」が出され、驚きと共に戸惑いがありました。これにつきましては、社会的養護の全種別で同様のものがあつたことと思われます。その後、このビジョンを受けて社会的養育専門委員会が開催されることとなり、当協議会からも会長が参加しました。社会的養護を必要とする子どもたちにとって家庭養育推進は特に否定はしませんが、施設養育が専門的に高機能化・多機能化していく方向になっていくことで、これからの位置付けが難しくなっていく感じでした。自立援助ホームは、この波を受けて、年齢の高い必要な子どもたちの最終的な自立支援と自立保障を担っていくこととなります。これまでも社会的養育の様々な関係施設や機関との連携と協力を得て、自立援助ホームの原点を振り返りながら対象者の援助を行ってきました。この年度は、協議会としてもブロック体制を確立して、各ホームの運営や設立についても進歩した年だったのではないのでしょうか。来年度に向けては、昨年度にできなかったことを前進させるべく、様々な対応ができるように協議会の体制づくりを強化していきたいと思つています。

2017年度 事務局事業報告

事務局の構成

事務局長 恒松大輔（あすなろ荘）
事務局次長 松本耕造（長谷場新宿寮）
庶務 久野亨（まつぼっくり）、大屋桂子（おうぎ寮）、秋田 豊（マラナ・タハウス）

1. 事務局員 役割分担

○事務局長（恒松）

- ・会員ホームの相談対応
- ・協議会に対する質問や相談への対応
- ・マスコミ対応
- ・三井住友海上保険の受付
- ・社会人一年生スタート応援事業助成の受付

○事務局次長（松本）

- ・会計責任者
- ・各種振り込み
- ・会計ソフトの管理
- ・決算書・予算書の作成
- ・運営役員会の交通費の支払い
- ・協議会の会費の徴収・祝い金振り込み
- ・三井住友海上保険の支払い

○庶務（大屋・久野・秋田）

- ・各種書類（通知文・ハンドブック・パンフレットなど）の配送
- ・メールにて各種連絡
- ・運営役員会の議事録
- ・入会退会関係（入会申し込み書の送付・電話での対応）
- ・自然災害などの被害届
- ・各委員会の動き・HP・たよりの確認
- ・会員のメールアドレスの管理
- ・運営役員会の開催（日程調整・会議室の確保・参加者に通知）
- ・発行物の送付

2. 運営役員会の開催

第1回 2017年 4月24日 11:00～12:00 大阪市立社会福祉センター
ホーム長研修会・総会 最終確認

第2回 5月15日 16:00～18:00 ㈱リアルエステートテクノロジーズ
ホーム長研修会・総会総括
宮城大会について
予算要望書提出について

		現況調査について		
		女性スタッフ研修について		
第3回	7月14日	12:30~16:30	人権教育啓発推進センター	
		全国大会について		
		各委員会報告		
第4回	9月15日	12:30~16:30	人権教育啓発推進センター	
		全国大会について		
		各委員会からの報告		
第5回	10月19日	11:00~12:00	仙台サンプラザ	
		全国大会最終確認		
第6回	2018年	1月29日	13:30~17:00	二葉保育園法人本部
		仙台大会について(報告)		
		愛知・名古屋大会について		
		赤い羽根福祉基金助成応募企画について		
		協議会の法人化について		
		各委員会からの報告		
第7回	3月19日	13:00~17:00	安保ホール	
		愛知・名古屋大会について		
		ホーム長研修・総会について		
		各委員会からの報告		

※開催時期に間に合わない可能性のある議案については、そのつど運営役員にメール等でお知らせし、確認を取る

3. 事業報告

- ・2017年 4月25日 総 会 (大阪市立社会福祉センター)
- ・2017年10月18日~21日 全国自立援助ホーム 仙台大会 (仙台サンプラザ)

4. 入退会関係

入会ホーム 13ホーム 退会ホーム 1ホーム

5. 販売について

パンフレット 220枚 実態調査報告書 42冊

2017年度制度政策委員会 事業報告

制度政策委員会の構成

委員長 前川礼彦 (湘南つばさの家)、
副委員長 矢吹富子 (南風)
委員 小倉淳 (みんなのいえ)、渡辺剛史 (トリノス)、関茂樹 (NEXT)

活動要旨

今年度は役員改選にて委員会も新体制になり、全員が交代になった。事業計画から引き継いだ内容を基に、委員会として更に出来ることを模索した1年であった。厚生労働省への予算陳情を中心に、政党のヒアリング対応、今後の制度政策の実現に向けた拡大勉強会の開催などを行った。

①厚生労働省への陳情、懇談会

- ・5月15日 国家予算要望書陳情 (参加者：各役員・事務局 計7名)
国家予算要望書の内容を説明し、担当課長以下数名との意見交換を行う
- ・7月14日 予算に関する懇談会
(参加者：会長、副会長、事務局長、委員長 計4名)
前回の意見交換を踏まえて、新たに加えた要望を合わせた意見交換。
就学者自立生活援助事業についても確認。
- ・10月3日 新しい社会的養育ビジョンについて懇談 (参加者：会長、委員長 計2名)
新しい社会的養育ビジョンの取りまとめを受けて、協議会にて提言を作成。
厚生労働省にて意見交換。合わせて来年度予算についての意見交換を行う。

②政党へのソーシャルアクション

- ・協議会役員会にて課題提議。「児童の養護と未来を考える議員連盟（以下議連）」等への働きかけや制度政策に関する勉強会を検討。
- ・11月15日 参議院議院会館、公明党団体ヒアリング対応。
（参加者：副会長、事務局次長、委員長 計3名）
国家予算要望書等を提出し、自立援助ホームの現状を説明。

③拡大勉強会開催

- ・1月29日 「自立援助ホーム等社会的養護に関わる制度政策の実現に向けて」
講師：武藤素明氏（全国児童養護施設協議会副会長）
会場：二葉保育園法人本部（参加者：役員、事務局、委員等 計15名）
内容：社会的養護の情勢、自立援助ホームの今後の課題、制度拡充へのソーシャルアクション等について学ぶ

④国家予算要望に向けたアンケート実施、その他委員会活動

- ・9月15日 委員会活動。委員の顔合わせと事業計画について。
- ・2月10日 各ブロックに取りまとめを依頼。平成31年度国家予算要望書案作成

2017年度 調査研究委員会事業報告

調査研究委員会の構成

- 委員長：屋代通子（シーズ南平岸）
- 副委員長：川口充紀（わだちの家）
- 委員：内藤直人（鳥取フレンド）、橋本由佳（坂梨ホーム）、合木啓雄（丸亀おひさま荘）

活動の要旨

2017年度は委員任期の更新期であり、「調査・研究」という目的に鑑み、できる限り多地域にわたり、なおかつ多様な視点が持てることを大切にして委員会を構成することとなった。

顔ぶれが大きく変わったこともあり、年度当初から新たな活動に取り組むというよりは、前年までの事業を継承しつつ、任期である二年の間の方向性を見出すことを目指した。

また、例年行っている「ホーム人数調査」については、ブロック体制の整備に伴い、各ブロックに集計を委任することができた。

前年度からの継続課題

- ① ハンドブックの見直し（特に制度の変わった部分）
- ② 研究者グループによるヒアリング調査への協力
- ③ 2015年度実態調査報告のさらなる分析

委員会活動

- 9月14日（木）人権教育啓発推進センターにて 委員初顔合わせ。
- 10月20日（金）仙台大会終了後、調査内容の検討
- *その他、メールにてやり取りし、随時打ち合わせを行った。

ホーム人数調査

前年度調査研究委員長より調査様式を引き継ぎ、全ホームを対象に4月に各ホームに配布、各ブロックに集計を依頼した。特に今年度は、高校・専門学校・大学等の在籍状況を調査した。

5月15日に厚生労働省に2018年度の予算要望をする際、集計した数値を示し、入居者の状況が多様化していることを説明する資料とした。

2017年度 研修委員会事業報告

研修委員会の構成

- 委員長 串間範一（ウイング・オブ・ハート）
- 副委員長 大野朋美（つばさ）
- 委員 平井千晶（慈泉寮）、羽田浩之（ベアーズホーム）、本間稚啓（人力舎君津）

<事業の内容>

▶ ホーム長研修会

- 日時 2017年4月24日
- 場所 大阪市社会福祉センター
- 内容 ・行政説明 厚生労働省雇用均等・児童家庭局家庭福祉課

課長 川鍋慎一 氏

- ・ 研 修 「新たな自立援助ホームの予算事業について」
～児童自立生活援助事業と社会的養護自立支援事業～
協議会副会長 平井誠敏 氏
研修委員長 田村 崇

- ・ 新規ホーム紹介

参加者数 111名

▶ 女性スタッフ研修会

- 日時 2017年7月4日～5日 場所 神戸市子どもの家
- 内容 ・ 講 義 「退居者支援 アフターケア事業部の取り組み」
そらまめなでしこホーム長 藤川澄代 氏
- ・ ディスカッション
各グループにおいてテーマ設定 フリートーク

参加者数 56名

▶ 第24回全国自立援助ホーム協議会仙台大会

- 日時 2017年10月19日～20日
- 場所 宮城県仙台市 仙台サンプラザホテル
- 内容 ・ 行政説明 厚生労働省子ども家庭局家庭福祉課
課長補佐 田野 剛 氏
- ・ 基調講演 「私の歩んできた道から自立支援を考える」
東北福祉大学 特任教授 草間吉夫 氏
 - ・ 分科会
 - 1 新たな制度の理解とホームの運営
 - 2 今 再び自立援助ホームの現状に迫る
 - 3 関係機関からみる自立援助ホーム
 - 4 子ども達と向き合う姿勢とは
 - 5 就労前支援 自己理解を促す支援とは
 - ・ シンポジウム 「ホームの暮らしの中で将来を紡いでいくこととは」
シンポジスト ふくろうの家 高橋一正 氏
ピアホーム 山澤由美子 氏
カリヨンゆうやけ荘 小久保志津子 氏
コーディネーター 東北福祉大学 草間吉夫 氏

参加者数 216名

▶ 新規ホーム研修会

- 日時 2018年1月22日～23日
- 場所 東京アルカディア私学館
- 内容 ・ 自立援助ホームの理念と歴史
協議会会長 平井誠敏 氏 (慈泉寮)
- ・ 自立援助ホームの経営管理について
協議会研修委員長 串間範一 氏 (ウイング・オブ・ハート)
 - ・ 実際のホームでの生活について
協議会事務局次長 松本耕造 氏 (新宿寮)
 - ・ ホーム運営の安定と関係機関との連携
協議会事務局長 恒松大輔 氏 (あすなる荘)

参加者数 32名

▶ スタッフ研修会

- 日時 2018年2月19日～20日 場所 名古屋市 ウィンク愛知
- 内容 ・ シンポジウム 「青少年との関わりとスタッフ間の連携」
～さまざまな葛藤と想いの中で大切にしたいこと～
シンポジスト びつつゆにっとホーム長 廣田敬史 氏
デンマーク牧場子どもの家
ホーム長 松田正幸 氏
つばさホーム長 大野朋美 氏
コーディネーター ウィング・オブ・ハート

ホーム長 串間範一

・講 義 「社会的養護自立支援事業と自立援助ホーム 退居者支援の現状と課題」
わだちの家 ホーム長 川口充紀 氏

参加者数 35名

▶ 研修委員会の開催

各研修会開催後に実施反省と次回の企画調整会議を実施した。また、メール等で随時連絡を密に行いながら、費用軽減に努めて運営してきました。

▶ 今後の課題

研修会後のアンケートを未実施だったため、今後に生かすための参加者からの声を聞く努力に欠けていました。次年度からはアンケートを実施します。

処遇改善加算要件研修の実施に向け、事務局との調整を行いながら負担のない研修の実施を図ります。

2017年度 広報委員会 事業報告

広報委員会の構成

委員長 新井秀親（夢舞台）

委員 松木良介（経堂憩いの家）、大橋達也（吾が家）、野原知子（マルコの家）

① 広報委員会定期開催

2017年度の広報委員会は、下記の通り定期的に年6回開催致しました。

第一回広報委員会	2017年6月26日	ベアーズホーム
第二回広報委員会	2017年8月9日	ベアーズホーム
第三回広報委員会	2017年9月27日	ベアーズホーム
第四回広報委員会	2017年11月29日	クリの家
第五回広報委員会	2018年1月31日	ウェスタ川越
第六回広報委員会	2018年3月7日	ウェスタ川越

② 『協議会たより』

全国自立援助ホーム協議会の広報誌として、『協議会たより』を予定通り年2回発行した。一回目は、仙台での全国大会直前の10月に発行。二回目は、年度末の3月に発行。

③ 人材の確保に向けた情報発信

今後のこの事業を担うべき人材育成に先駆け、その人材確保は協議会の最重要課題の一つです。協議会のホームページの中で人材確保に向けた情報発信を推進するために、自立援助ホームの仕事を簡単にわかりやすく説明するホームページ上におけるカラー刷りパンフレット『自立援助ホームのお仕事』の作成について、中身の細かな具体的な作成作業に入った。プロモーションビデオに関しては、動画作成について検討はしたが、具体的な企画立案には至らず。

④ ブロック化の推進

協議会のブロック化の導入に伴い、各ブロックへの情報収集に努め、協議会たよりやホームページを利用し、各ブロックの動向等を随時紹介した。